

通学路整備・「けろっと広場」完成・日吉の蛙も登場!!

中山道間の宿 新加納

まちづくり会かわら版

第8号

平成26年

4月15日

発行

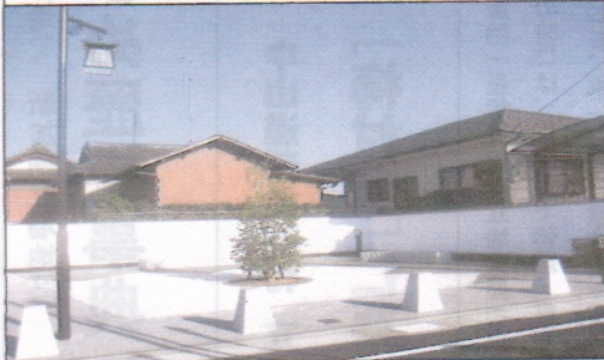
新加納まちづくり会
会長 小島秀俊

中山道南北・一里塚周辺 歴史景観蘇る!

- 平成二十五年事業が今年三月に完了し、新加納地域が一変しました。
- (一) 中山道榊形部、今尾医院と赤のれん南の中山道改修工事。
 - (二) 一里塚周辺の歴史景観整備、榎・かえる・案内版、常夜灯設置など。
 - (三) 名鉄新加納駅と中山道 (四) 西田商店と赤のれん (通勤・通学路)
 - (五) 「けろっと広場」新設。(かえるの壁画・案内看板は、今後設置予定)
 - (六) 鍋屋バイテック南の東西道路と県道前の改良工事など。

平成二十六年三月、待望の通学路整備と新加納駅前広場が完成しました。那加第一小学校へ通う一〇〇人余りの児童の通学路の安全。そして名鉄新加納駅を利用する、通勤客とイオンへのお客様の交通安全が図られました。

(至新岐阜) 名鉄各務原線 新加納駅 (至犬山)



名称「けろっと広場」! (新加納駅前)
那加中学校「日吉蛙プロジェクト会議」より



赤のれん～西田商店
小学生(40人余)登下校



西田商店～新加納駅
小学生(100人余)登下校



今尾医院～赤のれん
車道(4m)歩道(1.7m)



新加納駅～中山道
(通勤、通学、イオン買物客)



一里塚の案内版と日吉の蛙
南側には植木と常夜灯設置



桜
♥心の美しさ♥

まちづくり会は 頑張っています!

新加納まちづくり会も設立から三年がたちました。
現在六十三人の会員は、各分野で元気で熱心に活動しています。
歴史講座の開催、歴史の町見学、かわら版の発行。最近では、那加中学校の皆さんによる「日吉の蛙プロジェクト」等です。
各務原市の「都市再生事業」への協力は、最重点課題として取り組んでおり、皆様の要望実現をめざしてまいりました。
江戸時代の一里塚跡、中山道榊形部道路を始め、新加納の駅前広場、待望の通学路整備等多くの成果を挙げる事ができました。
先日の市長要望について、今後早期の実現をめざします。町内の皆様方のご支援とご協力をお願い致します。
新加納まちづくり会 会長 小島秀俊

浅野各務原市長へ「要望書」提出



一月二十九日、新加納自治会・区画整理組合・新加納まちづくり会合同で、浅野各務原市長へ、次の要望を致しました。

『要望の内容』

- ① 中山道立場「新加納地区」の歴史景観の保全と都市再生、都市再生整備計画事業。
- ② 旗本坪内陣屋跡「歴史の学習公園」整備。
- ③ 那加第一小の通学路 新加納駅～新田歩道橋迄と名鉄・JR踏切の拡幅及び水路安全対策。
- ④ 新加納土地区画整理事業及び関連事業へ引き続きの支援など要望しました。

読み捨て 新加納立場地地区

まめ歴史事典



枝垂梅 澄んだ心

江戸時代

中山道新加納村 立場茶屋

「梅村屋」仁兵衛と利兵衛

新加納一里塚付近に立場茶屋「梅村屋」があり、公家や武家の通行、大名の参勤交代の時には、梅村屋で休憩・宿泊などに御利用されました。

そして、第十四代將軍徳川家茂に嫁ぐ「孝明天皇の妹和宮様」通行の際には、梅村屋は「御小休所」に指定されました。

江戸時代、鵜沼宿と加納宿との間

の新加納村(間の宿)に、立場茶屋

「梅村屋」があり人気の宿でした。

「梅村屋仁兵衛」(七代目)は、中山道

新加納村で立場を勤め、煮売茶屋(飯・蕎麦・茶葉)を営んでいました。

ところが領主の坪内氏は、徳川幕

府の方針(宿場以外は営業を厳しく規制)があり、梅村屋の煮売茶屋の営業を

禁止しました。その為仁兵衛は商売

替えをしてみました。

そこで、鵜沼宿と加納宿の間屋と

年寄りが申し合わせて、領主の坪内

皇女「和宮様」梅村屋で小休

こうしよ かすのみやさま

文久元年(1861年)十月二十日 京都を出発し、十一月十五日江戸に到着しました。途中、十月二十七日四時半時(十時~十時半)頃、「梅村屋」で小休止し鵜沼宿で昼食。この日は、太田宿に御宿泊されました。

村では、「前後の四日間通行禁止となり、火の用心、煙・梵鐘の禁止・犬を繋ぐこと・葬式の延期」など種々の規制が出され大騒ぎでした。

梅村屋は、旗本坪内氏の接待所・近

隣の村役人の会合・旅人に利用され、

「小休本陣」(梅利)と呼ばれていました。またせんき妙薬(腹痛)の製造

販売も営みしました。

氏に「立場再開願状」を提出。その後

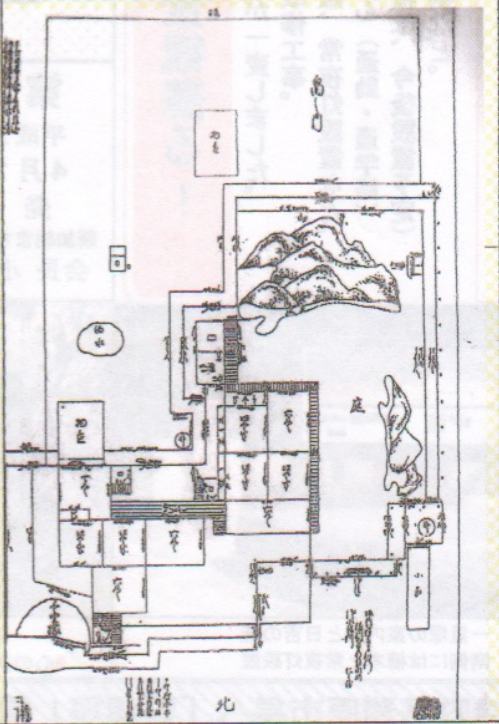
別家の「梅村屋

利兵衛」(八代目)が

引継、煮売茶屋は

再開できました。

「せんき妙薬のお盆



「梅村屋」の屋敷絵図 御休所 (建坪六十九坪余)

明治三年(1870年版)

『新加納八加納宿ノ手前二有リ、梅村屋方ノ庭ノ風景ハゴクヨロシク招女アリ』(諸国道中記)

梅村屋は、他の宿場女郎と違い美服をまとう粒よりの美人が揃いおもてなしも良く、旅人の間では中山道一の宿と評されていた。

しかし徳川幕府倒壊以降、人の往来も減少し衰退していった。

明治二十四年(1891年)十月

「濃美大震災」により立派だった建物も倒壊してしまいました。

明治三十九年(1906年)

遂に廃業しました。

今は善休寺の境内に、お墓がひっそりと建っています。

七代 今尾仁兵衛(一八〇六~一八八〇)

八代 今尾利兵衛(一八二六~一九〇七)



皇女和宮様

17歳江戸城入